

科目名	紛争処理法務	
担当者	笹邊 将甫 / SASABE, Masatoshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	取引の実務においては、多種多様な紛争が生じ得ると同時に、債権管理・債権回収のためにも様々な方法があり得ます。 本講義では、そのような取引の実務において生じ得る紛争に対する処理方法を学んでいきます。紛争処理法務では、紛争の解決システムである「民事訴訟(判決手続)」の基本的事項を扱い、債権管理法務では、実際に生じた債権を確実に回収する方法である「債権回収」を扱います。いずれの講義も密接に関連する講義ですので、セットで受講することをお勧めします。 なお、科目の特性上、民法の他、民事訴訟法、民事執行法、民事保全法、破産法等にも関連・言及します。
	到達目標	判決手続の基本原則や用語などの基本的事項に関する知識を獲得するとともに、判決手続の流れを理解し、その背景にある諸原則を理解する。
授業計画	(1) ガイダンス(授業内容・授業方針・成績評価基準)及び民事手続の概略と位置付け (2) 訴訟の開始①——訴え・裁判所(32-66頁) (3) 訴訟の開始②——当事者(66-77頁) (4) 訴訟の開始③——訴訟担当と代理(77-86頁) (5) 訴訟の審理①——審理の対象(88-98頁) (6) 訴訟の審理②——審理の過程Ⅰ(98-138頁) (7) 訴訟の審理③——審理の過程Ⅱ(98-138頁) (8) 訴訟の審理④——証明Ⅰ(138-174頁) (9) 訴訟の審理⑤——証明Ⅱ(138-174頁) (10) 訴訟の終了①——当事者の行為による場合(176-190頁) (11) 訴訟の終了②——終局判決による場合(190-209頁) (12) 複雑な訴訟①——複数請求訴訟(212-222頁) (13) 複雑な訴訟②——多数当事者訴訟(222-257頁) (14) 不服申立手続——上訴・再審(260-290頁) (15) 簡略な手続——少額訴訟・手形小切手訴訟・督促手続(292-305頁)	
自学自習	事前学習	上記の授業計画には、その回の講義で扱う部分の教科書の該当頁を示しています。受講者には、該当頁を予め読んでくることを希望します。 また、開講時までには、福永=井上『アクチュアル民事の訴訟』(有斐閣、2005)を読むことをお勧めします。
	事後学習	Moodle上で実施される小テストを毎回受験して、講義内容を復習しておいて下さい。任意提出のレポートを課す予定です。
使用教材・参考文献	【教】上原=池田=山本『民事訴訟法〔第6版〕』(有斐閣、2009) ISBN:978-4-641-15931-0 【参】上原=池田=山本『基本判例民事訴訟法〔第2版補訂〕』(有斐閣、2010) ISBN:978-4-641-13582-6 ※その他の文献は講義中に適宜紹介する予定です。 なお、講義には、Moodle上で配布されるレジュメを各自で印刷して、毎回持参すること。	
成績評価方法と基準	<方法> 小テストの結果(30%)、筆記試験の結果(70%)を総合評価します。 <基準> 総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。 ※詳細については、初回のガイダンス時に説明します。	
備考	◆六法を毎回持参して下さい。◆小テストやレジュメの配布には、Moodleを利用します。 ◆民事執行法Ⅰ・Ⅱ、倒産処理法を併せて履修すると深く学習できます。 初回のガイダンスには必ず出席して下さい。重要な点について説明を行います。	